

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年7月24日発行 No.45

『現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。』

(ローマの信徒への手紙 8:18)

<経済学部ブライダル論の授業で模擬結婚式を挙行!! 式典に込められたメッセージとは…?>

先週木曜日の午後、チャペルには結婚式でお馴染みの結婚行進曲(♪パパパパーン♪ってやつね)が響きました!! 「平日に結婚式!?!」と思った人もいるかと思いますが、これは経済学部で開講されている授業「ブライダル産業論」(担当代表:中矢英俊教授)による模擬結婚式でした。模擬とはいえ、受講しているのは将来ブライダル関係の仕事に関心を持つ学生さんばかり。この日も非常に蒸し暑い日でしたが、受講生が全員ビシッとスーツを着用して出席し、チャペルはいつも以上の緊張感に包まれました。式文も結婚式場やホテルなどで行われる短いものではない、日本聖公会の祈禱書に記された聖婚式の式文を用い、教会で執り行われる結婚式がどういうものを体験してもらいました!! この日、結婚する新郎新婦役を務めてくれた狭間君と藤本さんは少し恥ずかしそうでしたが、「結婚」を通して示される神の恵みとその奥義を、挙式を中心にいる二人だけでなく、出席者や関係者全体で祝い、共有するという、結婚式の根底に存在している基本的なメッセージを皆で確認できました!!

「人間関係が希薄になった…」と言われる時代ですが、今一度、このような機会を通して身の周りにある恵みや繋がりに目を向ける事の大切さを実感しました!!学生・関係者の皆さん、お疲れ様でした!!



ビシッとスーツを身に纏って参列

新郎新婦に扮した狭間君と藤本さん

ボランティアで協力してくれた寛くん

<前期最後の週の昼礼拝は、イベントが目白押し!! ぜひ覚えてご参加下さい!!>

4月に始まった前期も、いよいよ終盤を迎えました。期末テストの日程も発表され、学生の会話の間にもレポートや試験範囲に関する内容が聞こえてきます。そんな中、チャペルで毎日行われている昼礼拝も今週が前期最後の週となりました。ちなみに2017年度前期の実績は、7月21日までの集計で、礼拝回数70回、礼拝出席者数1,939人(一日平均27.7人)となっています。これらの数字は、お昼の礼拝にご出席下さった皆様のご協力あっての事と思い、心から感謝申し上げます。

また、この最後の週も音楽礼拝に加えて2名の学生奨励(経済学部4年生八代 祈さん、リハビリ学部3年生 寛 裕樹さん)を予定しており、最後まで充実必至の勢いです!!

ぜひ皆様、毎日13:00から涼しいチャペルで行われる昼の礼拝に足をお運び下さい!!



貴重な経験を語ってくれる2人

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

7月17日(月) テーマ:「混迷の時代を生き抜く力」

辻 正次(経済学部)

昨今のニュース等を見ていると「何が起こるか分からない」という言葉をよく耳にする。確かに経済も、諸外国も、天気も、不安定な要素が大きく、先の見通せない時代を迎えて心の中に不安が募る。そんな時、目を向けたいのがアリの「8:2の法則」だ。アリの集団の中で、常に全力で働いているのは全体の2割らしい。また更に興味深いのがこの2割を除くと8割の中からまた働く2割が創生されるのだそうだ。私たち人間も、生物の根源的な生き方である「社会性」、すなわち他者のために働くことで喜びを覚える生き物である事を覚えつつ、共に歩みを進めて行きたい。

7月18日(火) テーマ:「無限大の宇宙」

八代 智(学院長)

先日、本学で七夕祭が行われた。七夕の物語は、本来中国から伝わったもので、雨や曇りで星空があまり見えない日本では、こうした星に纏わる物語はほとんど見られない。オリオン座の中央には3つ並んだ星があり、その中央はアルニラムという名で地球から1,500光年離れている、つまり、今私たちが目にすることのできるこの星の光は、何と約1,500年前、飛鳥時代の光を今の時代に見ているのだ。本日の詩編は、この世界や宇宙の広さの中に神のご臨在を賛美するものだが、旧約聖書が成立したイスラエルもまた、満天に輝く星空が間近に広がる乾燥地帯の気候風土が生んだ唯一神信仰だ。日頃私たちは些事で悩むが、この夏、星空を眺める機会に、ぜひ無限大に広がる宇宙と、人知を遥かに超えた空間が存在し、私たちもその無限大の空間の中で生かされている事実を感じて欲しい。星空を見ながら、上を向いて歩こう!!

7月19日(水) テーマ:「追悼 日野原重明先生」 ~命のバトンを受け継ぐ~

野間 光頭(チャプレン)

105歳という高齢でありながら「生涯現役」を貫き、執筆や講演活動を続けられた聖路加国際病院の名誉院長:日野原重明先生が昨日、天に召された。今朝のニュースや新聞でも日野原先生の活躍や信念が特集されていた。その根底にあったのは、一人の医師として患者の抱える命に向き合う誠実な姿勢であった。今日の聖書箇所に出てくる「永遠の命」という言葉、これは不老不死という意味ではなく、まさに日野原先生の生き様に貫かれた、人間として求めるべき「命の喜びや輝き」を指す言葉だ。日野原先生から私たちに手渡された「命のバトン」。特にキリスト教を土台とするKIUに集う私たちは、このバトンをしっかりと後の世へと繋いでいく事が求められるのではないだろうか?

7月20日(木) テーマ:「爆発力の源に」

野間 光頭(チャプレン)

最近、陸上で男子100mで日本選手初の9秒台を記録した多田選手が注目されている。そこに共通するのは立ち合いやスタートダッシュ直前の「静寂」だ。緊張やプレッシャー等、自分の中の雑念を捨て一時の静寂に集中する事から、その後の爆発力を生み出している。今日の聖書の箇所でもイスラエルの偉大なリーダー、サムエルは静寂の中で神の声を聞いている。このチャペルも集う一人ひとりに向けて語りかけられている神の声を大切にするため静寂が守られている。その恵みに気づきながら共に歩みたい。

7月21日(金) テーマ:「見て見ぬふりをしないよう努める」

松本 かおり(経済学部)

社会学の中で階層論に関心があり様々なケースを見る機会があるが、よく立場や性別、また職位等において強い者が弱い者を抑圧する、いわゆる「いじめ」をよく見かける。先日、中国の思想家が亡くなったが、彼も政府から抑圧を受けて続けており、形から見るならば「いじめ」の一種と言える。ここで注意したいのが、いじめる側といじめられる側だけでなく、その周りにいる者の行動だ。これまでの人間の歴史を振り返ると、この第3者が見て見ぬふりをしてしまった事で被害が大きくなった事例が多くある。逆に厳しい中でも見て見ぬふりをせず、抵抗したり、いじめられている人を助けたりした人は、後の世で必ず評価されている。そんな誠実な生き方を目指したい。

(文責:野間 光頭)